

平成24年度「夢実現進学チャレンジセミナー」のプログラム紹介

【講演】

演題 『『能力』について考えなおす』
講師 大谷大学文学部哲学科 教授 鷲田 清一 氏

現象学、身体論を専門として哲学の視点から身体、他者、規範などに関する研究を進めながら、モードや国家について論じるなど批評活動は多岐に渡る。1989年『分散する理性』『モードの迷宮』でサントリー学芸賞を受賞した他、桑原武夫学芸賞、読売文学賞評論・伝記賞を受賞し、2004年紫綬褒章受章。2007年8月から2011年8月まで大阪大学総長を務め、同年9月より大谷大学文学部教授を勤めている。近年は特に教育や医療、介護の現場など、実社会において生起する諸問題へ哲学の思考を繋げてゆく「臨床哲学」のプロジェクトに取り組んでいる。高校生にとっては、『じぶんーこの不思議な存在』や『モードの迷宮』、『悲鳴をあげる身体』などが教科書に掲載されており、馴染み深い著作を数多く発表している。講演では、社会に生きていく上で他者との関係性を深めることの必要性について話していただきながら、東日本大震災に対する新たな視点を授けていただくことを通して、生徒たちが既成の概念にとらわれず、時代の閉塞感を打ち破る視点や発想の面白さに気付くことを期待している。

【国英数授業】

県内外の指導力のある先生が、授業を行います。

英語	講師	鳥取県立鳥取東高等学校	教諭	福島 卓也 先生
		島根県立浜田高等学校	教諭	建部 耕 先生
	内容	・文理共通 4時間 ・文法の基礎 ・読解スキルの向上 ・英作文		
国語	講師	広島県立神辺旭高等学校	教諭	戸田 正聡 先生
		島根県立島根中央高等学校	教諭	降井 直人 先生
	内容	・文系 2時間 文理共通 2時間 ・評論文の読解法		
数学	講師	広島市立基町高等学校	教諭	吉田 浩一 先生
		島根県立浜田高等学校	教諭	松村 茂樹 先生
	内容	・文理共通 4時間 ・難関大学入試問題につながる数学的発想		

【理系 島根大学医学部実習】

島根大学医学部で、終日医学実習と講義に取り組みます。

実習 診断から治療・リハビリに至るプロセスを学ぶ。
ある疾患を想定し、診断、治療、予後管理がどのように行われるかを体験します。
例 ① 突然倒れた患者 → BLS → 診断 → 治療 → 予後管理
② ガンが疑われる患者 → 画像診断 → 手術 → 病理検査

講義 ・島根大学医学部長に、島根大学取り組みと地域医療の重要性をお話しいたします。
・第一線の医師に、医療従事者としての心構えをお話しいたします。
・学生と夕食をともし、医療の将来を語り合います。

【文系 ワークショップ型プログラム】

プログラムⅠ 「自分を変えるチャレンジとは？ (仮)」
社会的な事象の背景を探ることを通して、自己と他者・社会をつなげることの大切さを理解し、「チャレンジ」するとはどういうことか、考え方・思いを深める。

- ① S. ジョブズの演説原稿を元にチャレンジするとはどういうことか思いを語る。
- ② 自己責任について考える。
- ③ チャレンジする意味を考える。

プログラムⅡ 「大人になるって、そういうことだったのか (仮)」
島根県弁護士会による法教育プログラム、法が定める成人年齢の妥当性を考える。

- ① 講義 法が定める成人年齢の捉え方
- ② 演習 成人の社会的な役割、大人になることの意味を考える。
- ③ 発表 各グループ(6人×5グループ)プレゼン5分 + 評価3分

※プログラム内容の詳細は変更される場合があります。

過去の参加者の声

この4日間は長いようであっという間でした。これはこの夢チャレでの学習がとても充実していたからだと思います。私は今までテスト前に勉強していても、なんとなく孤独感があったというか、他の学校だったらもっと楽な生活だったのかなか思ってしまった勉強自体が受身になっていました。でも今回の合宿で同じような目標に向かって頑張っている高2の人たちと学習していい刺激を受けました。みんなの学力、学習意欲に圧倒されてしまいました。また、著名な先生方から貴重なご指導を受けて一段自分の能力が上がったと思います。共に勉強した仲間、先生方に感謝したいです。(女子生徒)

この4日間を通して、良かった事は「切磋琢磨」できる他校の友ができたことだ。勉強するにしても1人ではなかなか進まないし、だんだん怠慢になる。そのとき友がいれば、励まし合い前に進むことができる。そういう意味では勉強は陸上に似ていると思う。ライバルではあるが、一緒に走り互いを励まし合い、ゴールまでたどり着く。このセミナーを通して気付くことができた。さらに、医師になるという明確な目標も見つかり、日々の学習に活気が出てきそうだ。(男子生徒)